

第2章 学校施設の目指すべき姿

学校施設は児童生徒が多く時間を過ごす場であり、安心安全で快適な教育環境の整備が求められます。また、少子化に伴い児童生徒数が減少するなか、学校の適正規模と適正配置の実現を図りながら、より良い教育環境の整備や地域コミュニティの拠点としての学校施設の充実が期待されています。

本市の教育の進むべき方向とそれを実現するための基本的な施策・取組を定めた「石巻市教育振興基本計画」や給食センターの運営や整備のありかたの方針を定めた「石巻市学校給食センター整備基本構想」、市立小・中学校の規模や配置のありかたを定めた「石巻市立小・中学校学区再編計画」等を踏まえ、学校施設の目指すべき姿として下記の項目を掲げ、教育環境の整備を進め、さらなる充実を目指します。

●安全に安心して過ごせる施設

- ・児童生徒の学習・生活の場である学校施設を安全・安心なものにするため、学校の老朽化対策や、学校設備の計画的な更新を図ります。
- ・学校施設は、地域の防災拠点として重要な役割を担っていることから、災害時の避難所としての機能や防災機能の充実を図ります。

●快適に過ごせる施設

- ・情報化社会に対応した ICT 環境の充実や、多様な学習活動を可能とした環境整備など、児童生徒の学習環境の向上を図ります。
- ・学校施設は、児童生徒の生活の場であるとともに、地域における様々な役割を担う場所でもあることから、トイレの洋式化や段差の解消など、生活様式の変化や社会の多様化等に対応した施設整備を進めていきます。
- ・環境負荷や維持管理のコストの低減を図るため、省エネルギーに配慮した施設整備を進めていきます。

●地域とともにある施設

- ・子どもたちの豊かな学びや健やかな成長のため、地域と連携・協働して学校教育を推進していくことが必要であることから、地域に開かれた学校とするための環境づくりに努めます。
- ・学校施設は、災害時における地域の防災拠点としての役割のほか、地域住民の学習活動・地域活動の場としての役割が期待されることから、地域交流の拠点としての機能に配慮した施設整備を進めていきます。

■本市での先進的な取組事例

先に記載した「学校施設の目指すべき姿」を実現していく上で、本市の学校施設のありかたに対する将来像のモデルとなり得る事例として、令和2年3月に新校舎が完成した北上小学校の取組を下記に示します。

1. 児童の健康と安全、環境に配慮した施設機能

- ・校庭や正門の様子を把握しやすく、また、校内を見渡せる位置に職員室を配置する等、セキュリティに配慮し、不審者等に対して適切に対応できる施設となっている。
- ・校舎及び体育館に自然光が入ってくる構造になっているほか、自然通風（換気）を生かした健康で快適な施設となっている。（図 2-1）
- ・太陽光発電等の自然エネルギーを積極的に活用し、地球環境に配慮した施設となっている。

2. 質の高い教育を実現する施設機能

- ・調理実習や食事会での利用を想定し、家庭科室に隣接してコミュニティスペースを設置している。
- ・図書室と PC 室を集約化したメディアセンターを設置している。（図 2-2）
- ・ICT 教育対応のため全教室に電子黒板を設置しており、デジタル教材やインターネット教材を積極的に活用している。（図 2-3）
- ・幼・保・小・中の連携に配慮し、隣接する北上中学校や北上こども園と連携し、交流することを想定した施設となっている。

3. 地域との交流に配慮した施設機能

- ・コミュニティスペースの地域開放も想定して廊下への可動式間仕切り設置や専用出入口の設置など校舎と切り離し可能な構造になっている。（図 2-4）
- ・地域利用を想定し、体育館専用の玄関を設置している。



体育館の自然採光



校舎内の自然採光

図 2-1 自然採光の建物構造

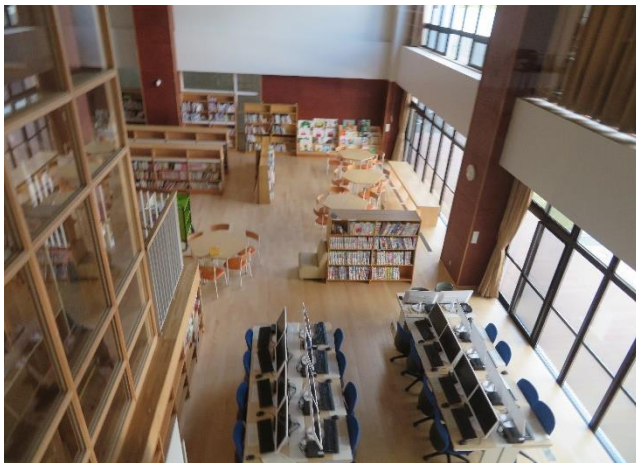


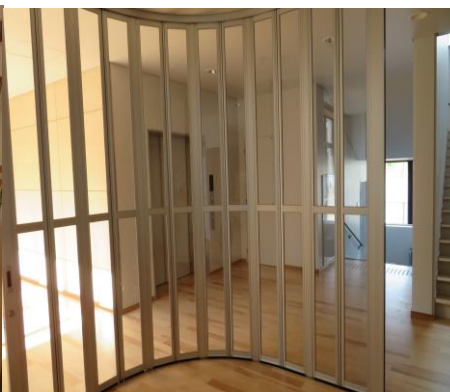
図 2-2 メディアセンター



図 2-3 電子黒板



多目的室



可動間仕切り



専用出入口

図 2-4 多目的室（コミュニティスペース）及び可動間仕切り、専用出入口